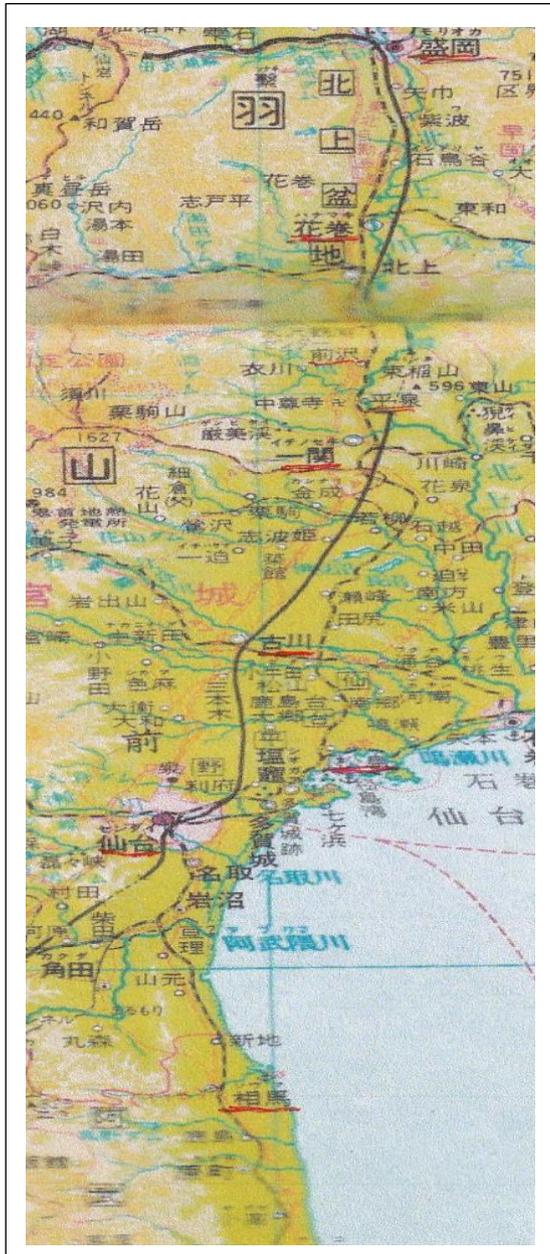


鎌倉文士の久米正雄が一高時代、盛岡から東京まで歩いた記録がある。とは旅行と読むのではなく**かちあるぎ**と読む。今流ウォーキングの事始めかもしれない。明治45年(1912)、「萬朝報」という新聞社が主催した学生の徒歩き大会で青森から東京までの記録である。「萬朝報」(よろずしんぼう)は、明治25年。小説家でもある黒岩涙香が、東京で創刊したに日刊新聞である。満朝報は政財界の有名人のゴシップを扱う、いわゆる赤新聞と呼ばれる新聞で結構、庶民の間では人気があったという。この萬朝報社が企画した学生の青森～東京間の今流、ウォーキング大会があった。

萬朝報社は青森～東京間を歩く学生を募集、選抜試験で選手2名と補欠2名を選んだ。2名の選手は、太平洋側と日本海側それぞれのコースでゴールの東京を目指すというものであった。この徒歩きは、単に速さを競うばかりでなく、学生にその日の旅の様子と掛かった費用、歩いた距離の記録を一日一回以上新聞社に送ることを義務づけ、その記録は評点され萬朝報に掲載され好評であったという。太平洋側の選手は専修学校(現専修大学)の清水都代三、補欠が日大の富田戒治郎。日本海側は一高の佐々木都代三、補欠はのちの作家となる同じく一高の**久米正雄**であった。ところが7月20日、青森を出発した清水選手は8月1日、盛岡に到着後倒れてしまった。補欠であった日大の富田の都合がつかず、急遽、日本海側ルートの補欠であった久米正雄が代役となった。



少年時代を郡山で過ごした久米正雄は、第二の故郷の東北を歩くことに非常にうれしく思いその記録は「学生徒歩旅行」として残されている。8月9日から9月23日までの紀行文は55回にわたり「萬朝報」に掲載され好評であったという。若者から見たその時代の東北の様子、今流、旅番組のようなものであったに違いない。この久米正雄の「学生徒歩旅行」は、以前、鎌倉歩け協会の会報に連載され、部分的に読んだ記憶があるが、私は学生時代、盛岡～東京間は汽車ではあるが何度も往復したので、関心もあったので調べてみた。

8月9日：岩手公論社長上村才六を訪ね、清水都代三の服装を着て、小野清一郎(刑法学の権威、泰斗)、佐藤とともに盛岡を見て正午、盛岡市長 新聞社の歓迎会、午後、岩谷(岩山か)温泉で一高会。

8月10日：花巻まで10里歩く。

8月11日：水沢まで8里半。池田屋泊

8月12日：前沢まで歩いて佐藤屋泊、平泉までの旅程を変更

8月13日：中尊寺を拝観し、一関へ。歓迎会の後、石橋ホテル泊
(盛岡～一関間距離：現在、国道4号線で85km)

8月14日：宮城県に入る。7里半にて築館。小野寺旅館泊

8月15日：築館より6里、古川、清水屋泊

8月16日：東に向かい小牛田を経て涌谷に泊。5里

8月17日：6里歩いて石巻。海を見る。

8月18日：7里歩いて松島、白鷗楼にて歓迎される。

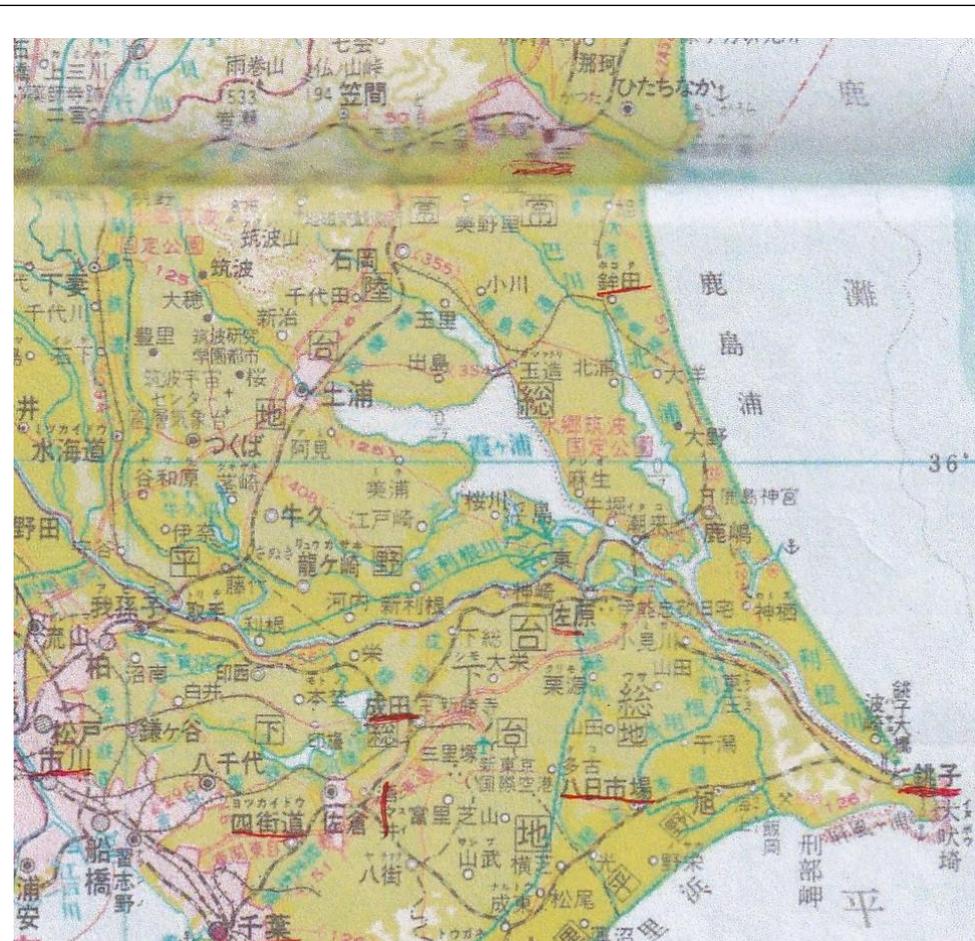
8月19日：瑞巖寺、松島で舟に乗り、塩釜を経て仙台に入る。

(盛岡～仙台間距離：現在、国道4号線で162km)

8月20日：森徳座で「豊川利生記」を観る。 8月21日：青葉城、林子平墓 急性腸カタルのため2日
 静養 8月23日：仙台大泉旅館を出て亶理へ（東北道と常磐道の分離点）
 8月24日：福島県に入り中村（相馬）に泊（仙台以降は歩いた距離の表示がないので、Japan AB.com に
 よった。以下同じ。仙台～相馬間 52 km、盛岡から 214 km）



8月25日：鹿島を経て原ノ町で歓迎を受ける。小学校の同窓会で訓話。中学の同窓生、旧師等に歓待され小高泊まり。(久米は福島県安積中学卒、一高へ)
 8月26日：富岡泊。歓迎会を受ける。
 8月27日：久之浜泊
 8月28日：平町（現いわき）に達し、西村霊人らの大歓迎を受け西村宅に泊まる。盛岡～いわき間 297 km
 8月29日：10人ほどで赤岳へ登る。湯本泊
 8月30日：常磐炭鉱を見る。昼、出発し小名浜を経て植田に泊まる。
 8月31日：勿来の関にかかり勿来小学校で歓迎会。住吉館で福島の人々の送別会。五浦の美術館を訪問。磯原で歓迎会。郷里に隠遁していた野口雨情（31）に会う。いわき～勿来 43 km。盛岡～勿来 340 km
 9月1日：3年に進級。松風館。起きると大雨、高萩から迎えが来るが旅館にとどまる。
 9月3日：高萩で歓迎を受け高萩泊。
 9月4日：川尻を経て助川（日立）。小学校で歓迎会 東暁館泊。
 勿来の関～日立 36 km。盛岡～日立間 376 km
 9月5日、水木、泉川を経て内陸、太田に入る。



勿来の関



常磐炭鉱住宅



水戸城址

9月6日：西山公園に水戸光圀の址、水戸市で市長等の歓迎を受ける。日立～水戸 32 km、盛岡～水戸 408 km

9月7日：水戸城址を見て、午後、出発。那珂湊で歓迎を受け泊

9月8日：磯浜で水産試験場を見学、引き留められて大洗2泊。

9月10日：銚田に入り泊

9月11日：小川泊。水戸～銚田 23 km 盛岡～銚田 431 km

この日、佐々木都代三（一高、日本海側走者）越後高田着）

9月12日：霞ヶ浦東岸を歩き、羽生、麻生に到着し、永作氏の湖月楼に泊まる。

9月13日：潮来を抜け、大船津を渡って鹿島。大川松陰に世話になる。

銚田～鹿島 24 km 盛岡～鹿島 455 km

9月14日：鹿島神宮に詣で潮来を通過して佐原に向かう。鹿島～佐原 18 km 盛岡～佐原 473 km

9月15日：佐原、伊能忠敬会。伊能登らに伊能の遺品を見せてもらう。

9月16日：香取神社に詣でる、伊能会と別れて東へ、小見川を経て下総豊里泊。

9月17日：銚子に着く。灯台などをめぐり、古畑氏宅に泊まる。

佐原～銚子 40 km 盛岡～銚子間 513 km

9月18日：西に向かい田舎芝居を覗いて飯岡を経て、八日市場で出迎えを受ける。

9月19日：多古を経て成田に入る。盛岡～銚子～八日市場～成田 590 km

9月20日：成田を発し宗吾神社、酒々井を経て佐倉。

9月21日：四街道を経て千葉へ出る。盛岡～成田～酒々井～佐倉～四街道間～千葉間 635 km

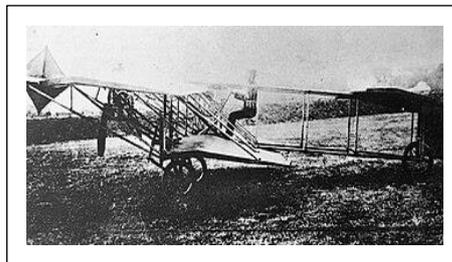
9月22日：稲毛で奈良原三次の飛行機試翔を見て、奈良原と話し検見川を経て船橋



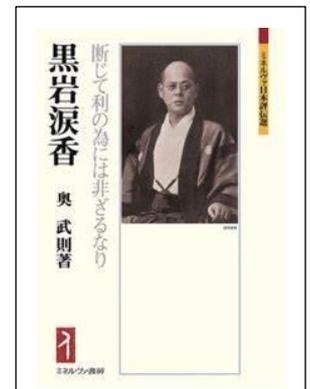
鹿島神宮



香取神社



奈良原三次の飛行機試翔



盛岡～千葉市～稲毛～船橋間 645 km

9月23日：市川辺りで、佐々木都代三らの出迎えを受ける。亀戸天神へ到着。船橋～亀戸天神 17km

出迎えの清水都代三（盛岡でリタイヤし、久米が引き継いだランナー）に会う。盛岡から 662 km

10月9日：萬朝報の連載終了。久米正雄は文武両道の文士でした。以上

久米正雄について。

久米正雄は生粋の鎌倉生まれの文士かと思っていたが、久米正雄は1891年（明治24年）長野県上田市の生まれ。父親は江戸出身で、上田市の小学校の校長をしていたが、小学校が明治天皇の御真影を焼いてしまい、その責任をとって割腹自殺。正雄は母の故郷である福島県安積郡で育ち、明治38年4月、郡山の旧制安積中学に入学、仲間と俳句同好会を結成するなど俳壇では注目されていた。無試験で第一高校に入学。その後、帝大文学部英文科に進み、在学中「新思潮」を創刊。その後、文士として活躍、1925年（大正14年）60歳、鎌倉で亡くなった。自ら編集にも携わったとされる「久米正雄全集」（全15巻）があるが、件の「学生徒歩旅行」は収録されていないが、その記録は、小野谷敦著の久米正雄詳細年譜にあった。また、福島県郡山には久米正雄記念館があり関係資料が展示されている。

ウォーキングという言葉を使うようになったのは、ごく最近のことである。「日本ウォーキング協会」の沿革をみると、昭和 39 年（1964）10 月、東京オリンピック開催の年、「歩け歩けの会」として誕生している。

前年、サンフランシスコからニューヨークまでアメリカ大陸を横断した早大の大西七郎さん等が早大、日大、青山、慶応、中央、お茶の水等の学生仲間達と「みんなで歩こう」と呼びかけたのが始まりである。学生を中心に毎月第一日曜日を「みんなで歩く日」と定め、全国に歩け歩け運動を展開した。そして、設立 10 周年を期して「日本歩け歩け協会」と改称。その後、名称を「**日本ウォーキング協会**」に改め、今日に至っている。

ウォーキングとオの字が大文字になっているが、意図的なのかは分からない。広辞苑、新聞用語の使い方ではウォーキングとなっている。いまやウォーキングは国民的健康管理、向上に有効とされ、各所、個人でも日常的に行われるようになった。

参考： 小谷野 敦著 久米正雄詳細年譜。あおもり歴史トリビア：460、465 青森市民図書館歴史資料室。
日本ウォーキング協会 HP 画像はすべて無料画像を使用。